

神奈川県立音楽堂開館50周年記念 シリーズ(円熟から明日へ)

園田高弘(ピアノ) 堤剛(チェロ) デュオ・コンサート

「室内楽の殿堂」として親しまれてきた音楽堂で、日本を代表する円熟した二人の演奏家が共演します。若き日に音楽堂のステージを数多く踏み、音楽堂の響きを知り尽くした二人の奏でる、重厚かつ格調高い演奏をどうぞお楽しみください。

2004年12月5日(日)14時開演

神奈川県立音楽堂

入場料4,000円 学生・シルバー3,000円(数に限りがあります)

円熟の二人ならではのプログラムにも注目！

J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲第4番 変ホ長調 BWV.1010

ベートーヴェン:ピアノソナタ第32番 八短調 op.111

シューベルト:アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821

ベートーヴェン:チェロソナタ第3番 イ長調 op.69

園田高弘(そのだたかひろ)

1954年初来日したカラヤン指揮のNHK交響楽団と協演、59年ベルリン・フィルの定期公演出演。以後長年にわたり国内外でリサイタル、協奏曲、室内楽とめざましい活躍を続け、特にドイツ音楽の演奏にかけては他の追随を許さない存在と評価されている。

これまでの演奏活動の中でもベートーヴェンのピアノソナタ、ピアノ協奏曲、ブラームス、ショパンのピアノ協奏曲全曲演奏会をはじめ、集中的にオール・バッハ、オール・シューマン、オール・リストの演奏会を開くなど特筆すべきものが多く、演奏家としての使命を持って絶えず創造的な活動を行っている。音楽堂初出演は1958年6月22日。

堤剛(つつみつよし)

日本を代表するチェリストとして、日本、北米、ヨーロッパ各地、オーストラリア、中南米など世界各地で定期的に招かれ、オーケストラとの協演、リサイタルを行っている。

共演した主なオーケストラには、ボストン響、アメリカ響、モントリオール響、バンクーバー響、トロント響、ロンドン・フィルハーモニア管、スイス・ロマンド管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ウィーン響、ドレスデン・フィル、チェコ・フィル、プラハ響、ローマ・セントチェチリア管など、枚挙に暇がない。

また、日本のオーケストラの海外公演にもしばしばソリストとして選ばれ、1974年新日本フィル世界演奏旅行、1984年東京フィルのヨーロッパ公演、1986年N響のニューヨーク公演に同行した。音楽堂初出演は1956年9月9日。

お問合せ:神奈川県立音楽堂(財団法人神奈川県立芸術文化財団)

プロデューサー:桜井健二 制作担当:木村

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL045-263-2567 FAX045-243-6216

<http://www.kanagawa-ongakudo.com>